

委員会の検討範囲及び検討の視点 【委員会の検討範囲の概念と例示】

永続的な高速道路機能の維持に向け

◎委員会での検討範囲 〔技術的な検討項目〕

【大規模更新】

・補修を実施しても長期的には機能が保てない構造物を再施工することにより、構造物の機能維持と性能強化を図るもの。

≪上部工架替え、床版取替え(RC床版⇒プレキャストPC床版)、グラウンドアンカー対策、盤ぶくれ対策 など≫

【大規模修繕】

・損傷した構造物の一部を補修・補強することにより、性能・機能を回復すると共に、新たな損傷の発生を抑制し構造物の長寿命化を図るもの。

≪SFRC(鋼床版補強)、外ケーブル補強、高性能床版防水、脆弱盛土対策、覆工補強 など≫

・更なる防災・減災対策

≪異常降雨、大規模地震災害(切土、盛土、区域外)≫

・第三者被害防止及び点検のあり方

≪フェールセーフ対策、道路附属物(標識、遮音壁)の経過更新、点検・性能評価手法確立≫

◎検討範囲外

【通常修繕】

・修繕サイクルが概成しているもの

≪舗装(表層修繕、深層部改良、施設設備の取替、橋梁の塗替え塗装)≫

・対症的な部分補修

≪構造物部分補修、床版補修、桁端補修、トンネル覆工背面空洞対策≫

・第三者被害防止のための対応策

≪はく落対策≫

【機能強化】

・基準の変遷に伴う地震災害対策

≪盛土の補強、橋梁の補強(落橋防止システム含む)、津波対策≫

・施設設備、安全施設の機能強化、更新

≪防災等級ランクアップ、防災対策機能強化防護柵更新(Gc→Gr)≫

【サービスレベルの向上】

・道路機能の高度化(ITS等)

制 償還期間、財源に関する内容

度 ネットワーク整備に関する内容

今後引き続き検討すべき課題≪PCグラウトの空隙、盛土の耐震対策、補強土壁の変形、地滑り、切土地山の風化・・・など≫